

令和6年度 大坪小学校校内研究計画

1 研究主題

1人1台端末を活用した授業改善

～「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を目指して～

2 主題設定の理由

(1) 社会背景

科学技術・イノベーション基本計画において「一人ひとりが多様な幸せ Well-being を実現できる社会」として Society 5.0 時代の実現を目指している。学習指導要領にも社会の変化が加速度を増し、複雑で予測困難となってきたことが指摘されたが、新型コロナウイルス感染症の世界的な感染拡大により、その指摘が現実のものとなっている。学校現場においても、児童を誰一人取り残すことなく、一人一人に個別最適化され、資質・能力を一層確実に育成できる教育 ICT 環境の実現のため GIGA スクール構想が示され、本校も令和3年度には一人一台タブレットパソコンと、通信ネットワークが整備され教育の ICT 環境が実現した。それに加えて、AI の飛躍的進化により、我々の生活も DX (デジタルトランスフォーメーション) による変化が始まっている。このような時代において次代を切り拓く児童には、情報活用能力をはじめ、言語能力や数学的思考力などこれからの時代を生きていく上で基盤となる資質・能力を確実に育成していく必要があり、そのためにも ICT 等を活用して、「個別最適化された学び」を実現していくことが不可欠である。

(2) 子供たちに育むべき資質・能力

社会の変化が加速度を増し、複雑で予測困難となってきたといった時代背景を踏まえた上で学習指導要領では「何を学ぶか」という教育の内容を重視しつつ、児童がその内容を既得の知識及び技能と関連付けながら深く理解し、他の学習や生活の場面でも活用できる、生きて働く知識となることを含め、その内容を学ぶことで児童が「何ができるようになるか」を併せて重視している。このため、各教科等の指導を通して育成する資質・能力を「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」の3つの柱に整理されている。また、総則において、児童の発達の段階を考慮し、言語能力、情報活用能力(情報モラルを含む。)等の学習の基盤となる資質・能力を育成するため、各教科等の特性を生かし、教科等横断的な視点から教育課程の編成を図るものとするを明記され、情報活用能力が言語能力と同様に学習の基盤となる資質・能力と位置づけされた。

(3) 「個別最適な学び【学習者視点】」「個に応じた指導【教師視点】」「協働的な学び」実現のポイント

「個別最適な学び」と「協働的な学び」を実現するためには、1単位時間の授業の中ですべてが実現されるものではなく、例えば、単元や題材のまとまりの中で、個別に学習を見直し振り返る場面をどこに設定するか、グループなどで対話する協働的な学びの場面をどこに設定するか、児童が考える場面と教師が教える場面をどのように組み立てるかといった視点で評価規準に示した資質・能力を身につけることが求められている。教師が一方的に教え込む暗記・再生型の授業から、児童自ら考え他者に伝え合う思考・発信型の授業に転換していかなければならない。しかし、これまでとは違う新しい教育活動を推進しなければならないという訳ではない。本校においても、これまでの研究成果をこれからの研究に活かすとともに、地に足をつけ土台を強固にした研究推進を実行していくことが重要であると考えている。

以下に「個別最適な学び」と「協働的な学び」の実現に向けたポイントを、整理して示す。

【個別最適な学び】

「指導の個別化」と「学習の個性化」を学習者視点から整理した概念が「個別最適な学び」であり、これを教師視点から整理した概念が「個に応じた指導」である。

① 指導の個別化

全ての児童に基礎的・基本的な知識・技能を確実に習得させ、思考力・判断力・表現力等や、自ら学習を調整しながら粘り強く学習に取り組む態度等を育成するためには、教師が支援の必要な子供により重点的な指導を行うことなどで効果的な指導を実現することや、一人一人の特性や学習進度、学習到達度等に応じ、指導方法・教材や学習時間等の柔軟な提供・設定を行うことなどの「指導の個別化」が必要である。

② 学習の個性化

基礎的・基本的な知識・技能等や、言語能力、情報活用能力、問題発見・解決能力等の学習の基盤となる資質・能力等を土台として、様々な場を通じての体験活動から得た児童の興味・関心の方向性等に応じ、探究において課題の設定、情報の収集、整理・分析、まとめ・表現を行う等、教師が児童一人一人に応じた学習活動や学習課題に取り組む機会を提供することで、児童自身が学習が最適となるよう調整する「学習の個性化」も必要である。

【協働的な学び】

探究的な学習や体験活動などを通じ、児童同士で、あるいは地域の方々をはじめ多様な他者と協働しながら、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、必要な資質・能力を育成する「協働的な学び」を充実することも重要である。

個別最適な学びと、協働的な学びを実現するためには、学校教育の基盤的なツールとして、ICT等は必要不可欠なものである。その一方で、ICTを活用すること自体が目的化してしまわないよう、十分に留意することが必要である。直面する課題を解決し、あるべき学校教育を実現するためのツールとして、いわゆる「二項対立」の陥ることのないよう、ICT等をこれまでの実践と最適に組み合わせて有効に活用する、という姿勢で臨むべきである。

(4) 研究の経過と学校の実態から

本校では、令和4年度より国語科を中核に据えて、自らの考えを確かに表現できる児童の育成をめざして取り組んできた。これまでの研究で培った財産である「1単元というまとまりを見通した授業改善」、「1単位時間の学習過程を意識し、習得した知識や技能を基に自らの考えを表現させる場を設定した授業改善」等を活かし、今後も、授業の中で自分の考えを書いて表現する場面を設定したり、できていない内容を確認したりして、確実に指導を行っていく必要がある。

また、今年度よりAIドリルや、児童用デジタル教科書（試運用）、校務システムソフトの導入などが進み、職員一同でより一層のICT等を効果的に活用して、児童の資質・能力の向上を図ることが期待されている。

3 研究主題について

(1) 研究主題にかかわる事項

「個別最適な学び」と「協働的な学び」に関する本校の捉え

ア「個別最適な学び」に関する事項

- ・必要に応じた重点的な指導、指導方法等の工夫により学習内容の定着を目指すこと。
- ・一人一人に応じた学習活動、学習課題の提供により、学習を深め、広げること。

イ「協働的な学び」に関する事項

- ・多様な他者との協働により、異なる考え方が組み合わさり、よりよい学びを生み出すこと。

4 研究の目標

一人一台端末を授業に効果的に取り入れることによって、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な指導方法のあり方を明らかにする。

5 研究の仮説

次のような手立てをとれば、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な指導ができるであろう。

- (1) 一人一台端末を活用した授業について情報を集め、授業実践を行い共有する。
- (2) タブレットの使い方や機能を周知し、職員のスキルアップを促す。

6 研究の内容と方法

(1) 一人一台端末を活用した授業について情報を集め、授業実践を行う。

- ア 学年の教科・領域に応じた授業実践を調べて学年グループに紹介する。
- イ これまでの実践を踏まえた、一人一台端末を活用した授業実践を行い、各学年グループに共有する。

(2) タブレットの使い方や機能を周知し、職員のスキルアップを促す。

- ア 一人一台端末の使い方や機能を中心に学習会を企画し、職員のスキルアップを図る。
- イ AIドリルや校務システムなど、今年度導入される新システムの運用について学習会を企画し、職員のスキルアップを図る。

7 めざす児童像

目的に応じ一人一台端末を活用して、進んで学習に取り組もうとする児童

低学年：一人一台端末を使って、楽しみながら学習に取り組むことができる。

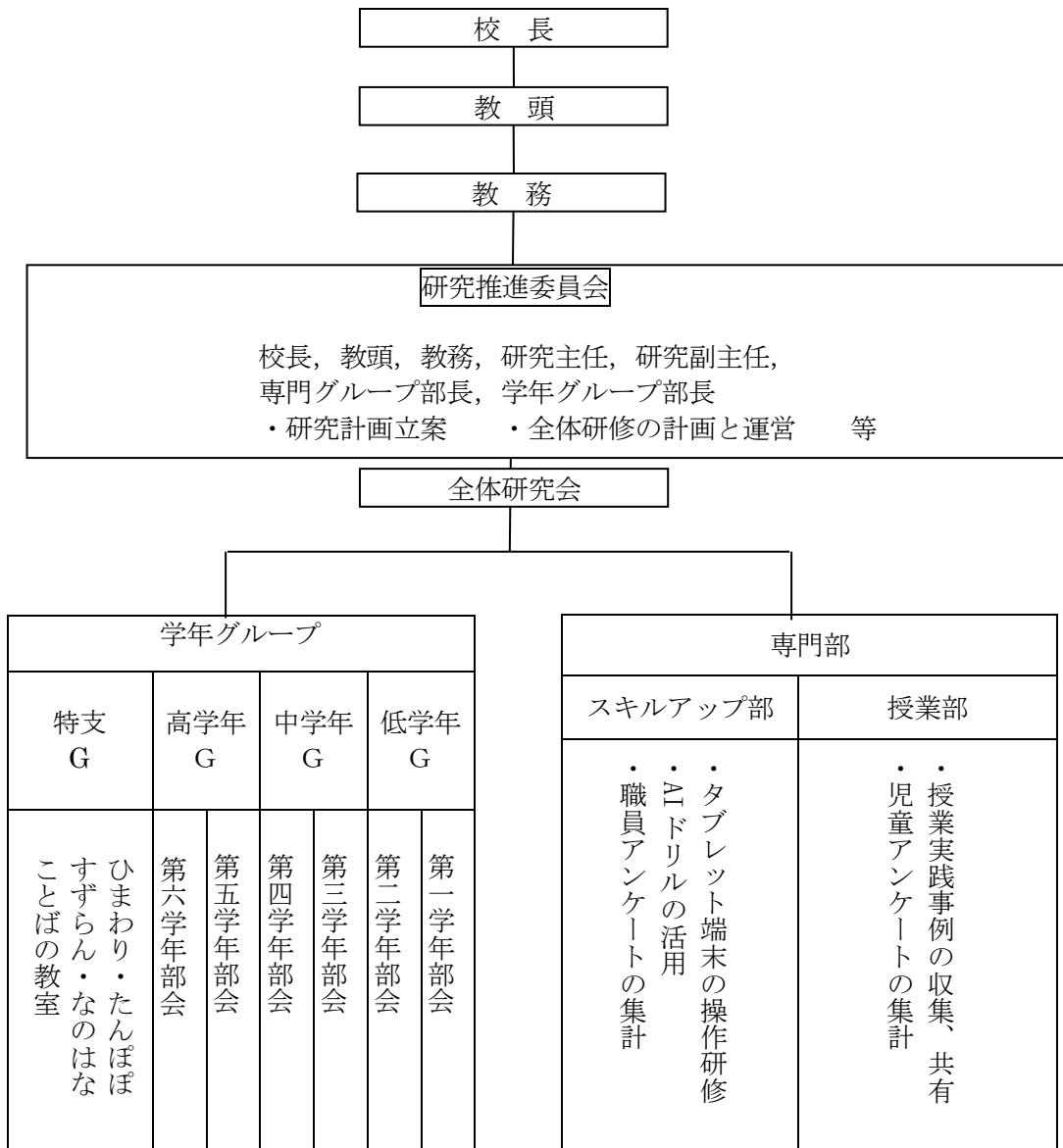
中学年：一人一台端末を使って、友達と協働的な学習に進んで取り組むことができる。

高学年：目的に応じた一人一台端末の利用を通して、友達と協働的な学習に進んで取り組み、自分の考えを深めることができる。

(検証方法)

- ・児童アンケート（年2回）
- ・職員アンケート（年2回）
- ・年間を通じた実践事例をまとめる。

8 研究の組織



共通理解をしたいこと

- ・一人一台端末を活用した提案授業（代表授業）を山口純平が行う。
- ・低学年グループ、高学年グループより代表授業を1名ずつ実施する。
- ・代表授業者でない先生方が一人一台端末を活用した授業実践を報告する（11月頃まで）。
- ・授業実践報告後に他学級でも実践（11月～1月）をした感想も研究のまとめに取り入れる。
- ・1棟舎2階中央土間付近の「国語コーナー」は「みんなの学習コーナー」に変更し、学習した成果物を掲示する。教科・領域は問わないが。月に1回程度更新していく。（管轄は学習部）
- ・市民図書館との連携で、国語の教科書に掲載されている本を借りてきて、各学年の廊下に置く。（管轄は教務主任）

9 年間計画

月 日	内 容
4月10日	研究推進委員会（研究概要の提案と確認）
4月16日	全体研（研究概要の提案）・専門部会（研究内容の確認、年間計画） 学年グループ研（研究内容の確認、学年G長）
5月8日	全体研（専門部の提案）
5月中	提案授業（全体研究授業） 山口純平
5月29日	専門部会・学年グループ研（授業者、単元の決定）
6月19日	専門部会・学年グループ研
7月上旬	職員・児童アンケートの実施
7月10日	専門部会・学年グループ研
8月2日	校内研修（プログラミング・ICT） 専門部会・学年グループ研（1学期の反省・2学期の計画）
9月4日	全体会（2学期の計画）・学年グループ研（指導案作成）
9月18日	全校授業研究会（仮）
10月9日	全校授業研究会（仮）
10月23日	全体研（実践発表会 高学年・中学年）
10月30日	全体研（実践発表会 特別支援）
11月	
12月上旬	職員・児童アンケートの実施
12月11日	全体研（実践発表会 低学年）・専門部会・学年グループ研（研究のまとめについて）
12月24日	校内研修（プログラミング）
1月8日	研究のまとめ作成
1月31日	研究のまとめ〆切
2月5日	研究のまとめ製本
2月19日	研修の反省（最終）
3月	次年度にむけた校内研修推進委員会

※ 年間行事予定をもとに計画を立てています。必要に応じて職員研修を追加したり、日程の変更をしたりする必要があります。

スキルアップ部計画

(メンバー)

低学年：南 深江 中学年：前田郁 岡 副島 高学年：小宮 友清 福田
特支：村山 堀田 江利 松本 和嶋 級外：山口正 松永

1 テーマ

タブレットの使い方や機能を周知し、職員のスキルアップを促す。

2 活動方針

ア 一人一台端末の使い方や機能を中心に学習会を企画し、職員のスキルアップを図る。
イ AIドリルや校務システムなど、今年度導入される新システムの運用について学習会を企画し、職員のスキルアップを図る。

3 実践内容

(1) 一人一台端末の使い方や機能を中心に学習会を企画し、職員のスキルアップを図る。

- ・導入されている Microsoft365 のアプリケーションと、本校のネットワークの環境下で実践できる内容を精査して、広く職員に周知するためのミニ研修を企画する

※ 参考資料

共有（先生）→令和6年度→019 校内研究→「GIGA スクールですぐに使えるヒント30」

(2) AIドリルや校務システムなど、今年度導入される新システムの運用について学習会を企画し、職員のスキルアップを図る。

- ・AIドリル（ラインズEライブラリ）
- ・今年度導入の新システム（スズキ校務）
などについて、導入業者の説明を含め、広く職員に周知するためのミニ研修を企画する。

(3) 職員アンケートを実施する。

- ・職員アンケートを実施する。
7月、12月の年2回

※ 参考資料

共有（先生）→令和6年度→019 校内研究→「教員に求められる ICT 活用指導等の向上」（教員の ICT 活用指導力チェックリスト）

4 実践方針

- ・隔週木曜日、ミニ研修を実施予定。
そこで、どんな研修を受けたいか、アンケートへのご協力を。
(右のQRコード、もしくはTeams→「令和6年度大坪小学校職員」より)

5 役割分担

(アンケート) 江利 松本 山口正 福田 副島
(研修計画) 村山 和嶋 堀田 前田郁 岡 小宮 友清 南 松永 深江

授業部計画

(メンバー)

低学年：大宅 杉原 中学年：山口純 前田空 高学年：小柳優 小山 水田
特支：田中 百武 吉富圭 大塚 川久保 級外：小柳茂

1 テーマ

一人一台端末を使った授業について情報を集め、授業実践を行う。

2 活動方針

ア 学年の教科・領域に応じた授業実践を調べて学年グループに紹介する。
イ これまでの実践を踏まえた、一人一台端末を活用した授業実践を行い、各学年グループに共有する。

3 実践内容

(1) 学年の教科・領域に応じた授業実践を調べて学年グループに紹介する

- 各教科領域等の一人一台端末の授業実践例を収集する
文部科学省ホームページ（共有（先生）→令和6年度→019 校内研究→ICT 活用場面事例）
SAGA Eコネクト
県 ICT 推進委員の公開授業
先進校視察（武雄市）など
- ※ どの内容、活用方法も大坪小学校でも流用できるかを精査する必要がある。
（アプリケーション、ネット環境、PC 自体のスペック等）

(2) これまでの実践を踏まえた、一人一台端末を活用した授業実践を行い、各学年グループに共有する

- 収集した実践例をもとに、授業実践を行う・・・ 時期未定 7月以降？年内には・・・
※1次アンケート終了以降
- 実践事例を記録に残す ・ ・ ・ 簡易指導案（ICT 利活用に視点を置いて）授業写真 等
- 実践発表を行う ・ ・ ・ 時期は年内を目途に
未定 やり方 学年 G 全体
ワークショップ 冊子等？

(3) 児童アンケートを実施する

- 児童アンケートを実施する
- 7月、12月の年2回